

C.COM

広島 の 生協

平和とより良き生活のために

SEP.2015
VOL.52

広島県生活協同組合連合会
発行 2015 年 9 月 10 日



継承と創造

特集：「継承」

特集：「継承と創造」

「証言」 1-2

- ・「次の世代に語り継いで…」
箕牧智之（広島県被団協副理事長）
- ・「被爆者の証言を聞いて…」
小林 幸雄（広島大学消費生活協同組合学生理事）
- ・「折り紙が世界を繋ぐ」 3-4
スペインエルニカ・ルモ市から来た
『平和の使者』
ジョブ・アンダー・ムサタディ
アナ・アギーレ

2015ピースアクションinヒロシマ 5-7

- ・「継承と創造」被爆 70 年、そして未来へ
2015 虹の広場
- ・「子ども平和会議」
- ・安全保障関連法案に対する要望書を提出
- ・「平和を願って」因島平和の集い
- ・2015 ピースナイター開催！

会員だより・トピックス

- ・福島生協病院新築オープン！ 8

事務局だより 9・10

- ・2015 年度通常総会開催
（広島県消費者団体連絡協議会）
- ・マイナンバー法に関する学習会開催
- ・特定商取引法を知ろう①
- ・理事会報告
- ・福祉・介護委員会報告
- ・スタッフ紹介

『日々のことから』 11

Jon Ander Musatadi

（ジョン・アンダー・ムサタディ）

・編集室から

特集 継承

憎むことはしない。しかし、
未来は平和であってほしい……



箕牧 智之 さん

1942年(昭和17年)3月生まれ。
1945年8月、原爆投下2日後、母親に手を引かれて行方不明の父親を捜すために広島市内中心地に入り残留放射線被爆を受けひん死の状態を経験する。
日本被団協全国理事・広島県被団協副理事長・北広島町原爆被害者の会会長

70年前、2つの原子爆弾が、広島・長崎市に投下された。たった2つの爆弾は、一瞬にして数十万人の命を断ち、それ以上に多くの人々を苦しめ、幾多の人生を奪い破壊した。「非人道性」、「絶対悪」が言われる核兵器、その恐ろしさと悲惨さが、年とともに人々に忘れ去られようとしている。またそのことを語り伝える、被爆の証言者も、歳月とともにその命の灯を消しつつある。一方で、二度と戦争という過ちを繰返さないように、何かをしなければならぬ、と努力をする人達。今日は、そのなかのお二人にお話を聞いた。

小林 2015年NPT再検討会議について、私も箕牧さんと一緒にニューヨークに行きました。現地に行かれての感想をお聞かせください。

箕牧 歳を取って10数時間も飛行機に乗って、数千キロも離れたニューヨークに行くのですから、ある種の覚悟がいりました。しかし、結果は「合意文書」の不採択、本当にがっかり失望しました。残念です。

小林 そうですね。核保有国と非核保有国との意識格差は大きかったですね。

箕牧 お互いの立場と利益の主張ばかりでした。日本の国も、核兵器反対の声を明確に表示できませんでした。世界唯一の被爆国である日本国民として情けなかったです。いつまでも核の傘の下にいては駄目ですね。

小林 核保有国の首脳に、「広島・長崎の被爆地を訪れてもらおう」という日本の提案も、中国、韓国の猛反対で流れてしま

いました。

箕牧 中国と韓国は、太平洋戦争では、日本によって大変な迷惑と被害を蒙った国です。お互いの国の立場を乗り越え人類としての共通理解が必要だと思えます。

私は、2010年と今年2015のNPT再検討会議に行きました。そのときアメリカの人達に原爆の悲惨さを語る際、先ず、日本が戦争の火ぶたを切ったことを、必ずお詫びしています。それが「公平」だと思うのです。

小林 普通、被爆された方は、傷が大きすぎてお詫びするということはありませんね。

箕牧 そうです。私たち被爆者が、アメリカの人たちに原爆の被害を訴えると、向こうの人は必ず太平洋戦争の始まりとなる日本の「真珠湾攻撃」を持ち出して、原爆投下は「仕方がなかった」、「当然のことでは……」といわれます。そのことを日本人は、知っておくべきですね。

小林 箕牧さんは国連ロビーで、集まった人達に被爆の実態を訴えました。その時の反応はどうでしたか。

箕牧 私の話が進む毎に人が人を呼んで、多くの人が集まって熱心に聞いてくれました。しか

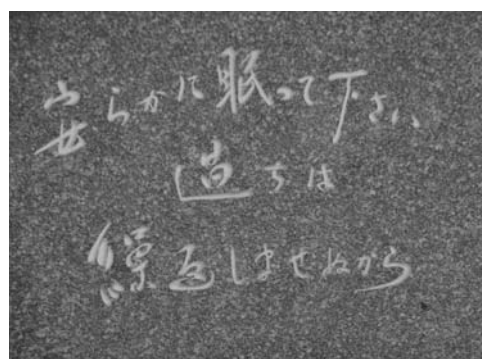
被爆の体験を受け継いで…



小林 卓也 さん

静岡県出身、1994年（平成6年）2月生まれ。大学生協の学生理事となつて、核兵器廃絶運動に参加、広島大学経済学部3回生。広島大学消費生活協同組合学生理事・組織 OZ 部員

創造



し、本当はその場所で演説することは禁止されていて、警備の人から「そこで演説しちゃいかん」と注意されましたが、しかし私はそれにかまわず続けました。話し終えたとき、顔見知りのカナダ在住の日本女性から「箕牧さん。良かったよ。感動です」と言ってもらえました。

小林 国連の本部に詰めかけた人は、ほとんどが日本人と日本の報道陣でした。しかし、そこにいた外国の方達も、実際に被爆された方の話は、食い入るように聞いていましたね。箕牧さんは、学校行つて学生さんにも話をされました。その時の様子をお話いただけますか。

箕牧 市内の何処の高等学校かは解らなかったのですが、日本のシャイな学生さんと違って、アメリカの学生さんは実に積極

的でした。ひっきりなしに手を上げて、私にいろいろな質問をしてきました。そして、私が話すことで核兵器の恐ろしさがかなり理解できたようでした。

改めて、若い人に訴えて行く必要があると思いましたね。

小林 向こうの教科書では、「先に攻撃したのは日本」ということを書いてあるそうです。だから、若い人にも原爆を落としたのは正当だという考えがあります。しかし、彼等も、実際に箕牧さんのような被爆体験をされた人の話を聞くと、実感として核の怖さが解るようです。

箕牧 そういう意味でも私たちが核保有国のアメリカに行つて話をすることは大事だと思います。

小林 NPT再検討会議のさなかだったと思いますが、ロシアのプーチン大統領が、ウクライナで「核」の使用を考えた、と発言した報道がありました。それに對して一言。

箕牧 核保有国のおごりですね。本当に怖いことです。プーチン発言は、「核使用は紙一重のことで起こりうる」ということを物語っています。

ですから私たちは、核兵器禁止を訴え続けて行く必要があるのです。

小林 被爆70年、被爆の証言をする人が年々少なくなっています。これからはどのようにしていけば良いと思われますか。

箕牧 そうですね。私はいま73歳、被爆者のなかでは一番若い方です。他の方はほとんどが80歳を超えられています。その人達が健在なうちに、被爆の実相を語り継いで、それを後世に伝えてもらいたい。広島市・長崎市以外の所でもその動きが起きています。その仕組みを考えなければいけません。

小林 受け継いで行く若い人にとのようなことを望み期待されますか。

箕牧 ニューヨークに行つて解つたことですが、私たちが鳴り物入りで国連に訴えに行つても、意外と世界の人に被爆者の声が届いていません。小林さんのような若い人にもっと勉強していただいて核兵器禁止の『核』となつて、世界に発信していただきたいと思います。

小林 日本の国に対して何か一言があれば。

箕牧 やはり、隣の国々と仲良くしていただきたい。それが平和の基本だと思います。

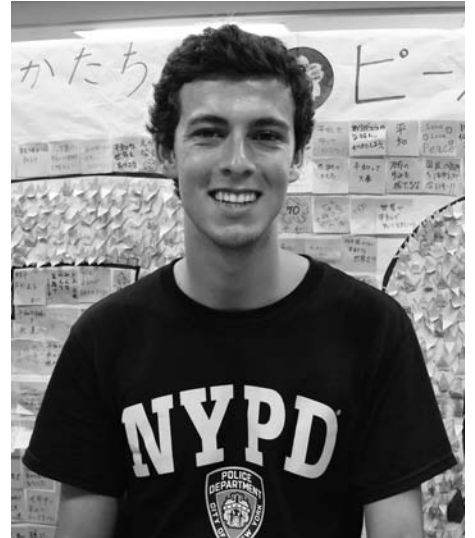
小林 ありがとうございました。私たちも箕牧さんの心を受け継いでがんばります。

平和の心を受け継いで

スペイン ゲルニカ・ルモ市から訪れた『平和の使者』



8月7日、松井広島市長を表敬訪問。ゲルニカから持って来た折り鶴を手渡す



Jon Ander Musatadi さん
(ジョン・アンダー・ムサタディ)

スペインの若者たち、
そして被爆70年の夏

8月6日を挟んで、暑い広島
の夏を経験したスペインの若者
たち。8月12日(月)、帰国の
途に。初々しい未来ある若者た
ちは、約1週間広島で何を感じ
たでしょうか。

ピレネー山脈をはさみ、スぺ
インとフランスの両国にまたが
るバスク地方。そこに住む人々
はバスク人と呼ばれ、ヨーロッ
パの他の地域とは異なる言語を
持ち、独立心の強い独特の文化
を育んできました。近年では美
食とアートの都としても注目を
浴びている地域です。

バスク地方最大の都市、ビル
バオ(バスク語ではビルボ)は、
スペイン有数の大都市とは思え
ないほど緑豊かで、治安も良い。
バスク語は独特の言語で、悪魔
が、バスクの娘を誑かそうとし
てバスクの国に7年間滞在した
けど、とても難しくて覚えたバ
スク語は「はい」Bas.と「いいえ」
No.だけだった、というジョー
クもある。また、中世フランス
にはバスク語を勉強するという
刑罰があったほど……。

スペインの若者たちが、スぺ
インと日本の懸け橋になり、ひ
いては世界平和の礎を次世代に
築いてくれることを願って、1
週間の滞在の様子を
紹介します

被爆の実態を知る

「若い世代間の交流を促すこ
とによって、世界的な平和への
認識を促進できる」という思い
をもった若者ジョン・アンダー
ル・ムサタディ (Jon Ander
Musatadi) さん(以下ジョン)が、
遠くスペインのバスク地方ゲル
ニカ・ルモ市から、広島市にやっ
て来ました。

ジョンさんは、スペイン自治
州バスクのゲルニカ・ルモ市の
出身で、現地のモンドラゴン協
同組合企業体により設立された
モンドラゴン大学(経済学)を
卒業後、モンドラゴン労働者協
同組合が創設した T Z B Z
(イノベーション・プロセスの
コンサルティング会社) のス
タッフとなりました。

お父さんも労働者協同組合の
職員だったジョンさんは、子
どもの頃からモンドラゴンの協
同組合の仕組みと仕事について
よく学んでいました。T Z B Z
では持ち前の熱意と行動力とで
たちまち頭角を現したジョンさ
ん、現在ではT Z B Z の主要経
営スタッフの役職に就いていま

す。

T Z B Z でジョンさんは、事
業の国際化戦略の一環で、中国、
アメリカ、フィンランド、イン
ド等の国を訪問し、T Z B Z と
顧客との共同作業を意図し、人
間中心の設計、ラジカルで革新
的な教育プログラム、ビジネス
の市場戦略を確立し、活躍の場
を広げました。

そのジョンさんが、今年3
月、一人で日本を訪れたのです。
子どもの頃から日本が好きで日
本語を勉強したこともあるとい
うジョンさんの日本訪問の理由
は、「日本を見たかった」とい
うことです。

東京に降り立ったジョンさん
は、自分が所属する協同組合
と同じ協同組合という伝手を
頼って労働者協同組合の本部を
訪問。そこで、「広島に行きた
い」ということで、広島県生協連
を紹介され広島市を訪問しま
した。広島では、広島県生協連
の岡村信秀会長との関わりが出
来、続いて高田公喜専務理事と
も友好を深め、高田専務の案内
で広島市とヒロシマの原爆被害
の実態を知って強い感銘を受け
ました。なかでも佐々木楨子さ
んの話に大変強い印象を持った
ようです。

平和の心を受け継いで



ゲルニカでの「折り紙プロジェクト」イベント

折り紙プロジェクト

ジョン・アンダー・ムサタディと、協同組合「TZBZ」が立ち上げたプロジェクトで、折り鶴を折ることで平和への意識を醸成し、広島とゲルニカとの関係を強化することを目的としている。

TZBZ

スペイン・バスク自治州にある私立大学・モンドラゴン大学の学生14人が立ち上げた協同組合。コンサルティング業務を中心に、インドにおける児童婚撲滅を目的とした教育支援等の社会的なプロジェクトや、企業と大学とのビジネス面における連携を促進するプロジェクト等を実施している。バスク自治州ビスカヤ県の県都ビルバオを拠点に活動している。



8月3日、大勢の人が訪れる折り鶴の子の像



8月5日、2015ピースアクションinヒロシマの会場で



8月3日、ヒロシマでの歓迎を受けて



8月3日、ヒロシマでの第1回ミーティング

ジョンさんは、このゲルニカ・ルモ市と広島市とを「折り紙」を通じて結びつけたのです。6月12日、彼自ら「ゲルニカからヒロシマへの折り紙」プロジェ

クトの代表となり、その一環として大規模な平和イベントを、ゲルニカの兵器工場から文化施設に生まれ変わった「アストラ」で、開催しました。イベントには、ゲルニカ・ルモ市内外の12歳の学生約200人が参加しました。

このイベントでは、70年前に広島で起こった出来事と78年前にゲルニカで起こった出来事を関連づける取組みとして、ゲルニカ爆撃の体験者であるルイス・イリオンド氏による証言がなされました。また、「広島県生協連」とその活動支援者が撮影した2人の被爆者による証言ビデオの上映が行われ、参加者全員が視聴しました。その後で全員で千羽鶴を折ったのです。

平和のための行動

ゲルニカ・ルモ市に帰った

ジョンさんは、早速持ち前の行動力を発揮します。ジョンさん

が住むゲルニカ・ルモ市は、広島市と同じように、1937年

4月27日、スペイン内戦におけるフランコ反乱軍による空爆

によって、1600人の死者、900名近い負傷者、町は瓦礫

と化すという大変な被害を受けました。その惨劇は、パブロ・

ピカソの『ゲルニカ』というタ

イトルの絵となって今日世界的に知られています。



この千羽鶴は、ジョンさんが事前にゲルニカ市長を説いて、広島市の松井市長に親書を送っていただいたことによって、ジョンさんと共同創設者アナさん、ゲルニカの2人の高校生によって、8月7日に広島市の松井市長を表敬訪問して手渡されました。

「折り紙プロジェクト」は、ジョンさんがヒロシマから平和に対する強い感銘を受けたことによって、若い人達の力で平和の文化を培い、広島市とゲルニカ・ルモ市の間に深い協力関係を築き世界の平和を促進することを目指したものです。

ジョンさんの生年月日は1993年8月、今年21歳です。日本の広島市からほぼ地球の反対側にあるスペインのバスク地方ゲルニカ・ルモ市の一青年が、弱冠21歳のゲルニカの青年が、ヒロシマと佐々木禎子さんのことを知って、ゲルニカと広島市を結びつけて、世界平和を促進するために行動を起こす。誰から頼まれたのでもなく、ただ世界の平和を願って、自らの感性に込め、ゲルニカから数千キロの距離を超えてヒロシマに。平和の心が地球規模で受け継がれていきます。(取材・ヤマト)

「折り紙プロジェクト」は、ジョンさんがヒロシマから平和に対する強い感銘を受けたことによって、若い人達の力で平和の文化を培い、広島市とゲルニカ・ルモ市の間に深い協力関係を築き世界の平和を促進することを目指したものです。

被爆70年、
そして未来へ――



ファイナーレは、虹のひろば合唱団の合唱で幕を閉じました。

2015 ピースアクション in ヒロシマ「子ども平和会議」・安全保障法案に対する要望書

未来を担う若者が 核なき世界をアピール

8月5日(水) 広島県立総合体育館において、「子ども平和会議」を開催し、全国14生協から53名の子どもたち(小学2年生～高校2年生)が参加しました。

この子ども平和会議は、ピースアクションinヒロシマ「継承と創造」をテーマに、これからの未来を担う子ども達が継承者として平和を語り継ぐきっかけになればと、長崎県生協連と広島県生協連が被爆70年という節目の年に企画をしました。

参加した子ども達は、自分た



子ども平和会議の様子



同日の午後に開催された、虹のひろばのステージで平和のアピールを発表

ちの住んでいる地域で起こった戦時中の話など、事前に学習したことをグループに分かれ交流を行いました。また、全体学習では、広島平和文化センターの荒瀬課長より「平和な世界をめ

ざして」と題し、世界に対する平和への取り組みや核兵器についてのお話を聞き、グループに分かれ「核兵器や争いごとをなくすために私たちができること」をテーマに、意見を出し合い発表しました。

子ども達からは、「戦争は自分たちにとって大切なもの、家族・友達・夢・希望・楽しみな

ど、当たり前前の幸せを奪ってしまふもの」「正しい事を知って伝えることが大切」など、さまざまな意見が出ました。これらを踏まえ、子ども平和会議では「二度と同じ過ちを繰り返さないため、話し合いをしたら、周りの人に伝えたりすることです平和への思いを訴え続け、核兵器のない平和な世界を創っていきます」というアピール文を採択しました。

子ども平和会議に参加した子ども達の感想には「他の県の人と交流することで、自分の知らないことを知る事ができた。」「命の大切さや戦争の怖さを、周りのひとに伝えていきたい」などの声がありました。

広島生協連発第 2015—035 号
2015 年 7 月 10 日

内閣総理大臣
安倍 晋三 殿

安全保障関連法案に対する要望書

広島県生活協同組合連合会
会長 理事 岡村 信秀

現在、国会で審議中の新しい安全保障法制を構成する 11 法案については、これまでの「専守防衛」を事実上撤廃するもので、憲法を超えた解釈の中で法整備が行われようとしており、拙速な国会審議に危惧をいいております。

安全保障関連法案は、集団的自衛権の行使を可能にすることなど、戦後日本の安全保障政策の大転換であり、歯止めのない集団的自衛権の行使につながることで、戦争放棄を明確にうたう憲法 9 条に反します。

集団的自衛権行使を可能とする安全保障関連法案に係る最大の問題は、世論調査(2015 年 5 月 30 日、31 日実施、「説明不足」と感じている国民の比率が 81.4%)でも明らかのように、日本の進路を大きく変えようとする政策の転換が、国民不在のまま進められようとしていることです。まさに今回の法案と審議の進め方は、平和国家の根幹である「立憲主義」と「民主主義」を自ら放棄するものです。6 月 4 日の衆議院憲法審査会では、3 人の憲法学者全員が「憲法違反である」と明言したと合わせて、共同通信社の世論調査(6 月 20 日、21 日実施)でも、安全保障関連法案が「憲法に違反していると思う」との回答は 56.7%、法案そのものへの反対が 58.7%と過半数を超えています。安倍首相は、この専門家の意見と世論調査に表れている民意に真摯に向き合い、正面から受け止めるべきです。

ヒロシマは 70 年前、人類史上初めて原子爆弾投下により、多くの市民が犠牲となりました。今なお被爆者の多くは、その後遺症に苦しんでおられます。私たちの願いは、二度とそうした惨事を繰り返さないために、戦争も核兵器もない平和な世界を実現させていくことです。

どうか、人類の恒久平和を求めるヒロシマからの、心からの願いをお聞きいただき、安保法制関連法案については、将来に禍根を残さないためにいったん廃案にして、国民全体でオープンな議論をしっかりと時間をかけて行うことを要望いたします。

安全保障関連法案 に対する要望書

広島県生協連では、安全保障関連法案に対する要望書を
安倍晋三内閣総理大臣及び
大島理森衆議院議長に
提出しました。

因島平和の集い・2015 ピースナイター

「平和を願って」 因島平和の集い

日立造船因島生協



講師の小林卓也さん



集いの様子



参加者全員で平和を願ってピース!

2015市民平和行進に引き続き、ポートピアはぶ(多目的ホール)にて平和の集い(講演会)を開催いたしました。今年は、被爆70年を向え、ピースアクション虹のひろばのテーマの「継承と創造」被爆70年、そして未来へ」を踏まえ、被爆70年「若者による平和活動への取り組み」をテーマとして講演

会を開催しました。

講師には、広島大学経済学部3年小林卓也様にご講演をいただきました。小林様は、広島大学現役の学生さんですが、広島大学消費生活協同組合学生理事としても活躍されており、今年の4月〜5月ニューヨーク国連本部で開催されたNPT再検討会議の代表派遣団の一員として参加されました。講演の中で、平和活動への取り組みを始めた経緯や、NPT再検討会議報告、現在取り組んでいる活動など、分かり易く若者のエネルギーみなぎる言葉でお話をして下さいました。

参加者から印象的な意見が出されました。先日もテレビ放送で取り上げられていましたが、学校現場において、子どもたちに平和学習の時間が取れていなく、優秀な生徒でも平和に関する理解が乏しいとの事でした。継承と言う観点からも、今後の活動において、子どもたちと一緒に参加できるような企画を考えていきたいと思っております。今後とも皆様のご協力をお願いいたします。

2015 ピースナイター開催!

8月5日(水)、広島市南区のマツダスタジアムでピースナイターが開催されました。ピースナイターは広島市の復興の象徴でもある広島東洋カープと協力し、プロ野球を通じて核兵器廃絶と平和の願いの発信を目的に2008年から開催され、今年で8回目を迎えました。市民の間でも、平和のイベントとして定着してきています。今年は広島東洋カープ対阪神タイガースのカードで行われ、両チームの選手は袖にピースワッペンを付けて試合に臨みました。始球式は広島市の被爆二世で世界で活躍



森下洋子さんの始球式



5回裏のパフォーマンス

福島生協病院新築オープン



新病院外観



新病院エントランス



明るく開放的な病院内



福島生協病院 院長
田代 忠晴

福島生協病院 新築オープン！

理念・「私たちは、患者さんの立場に立った医療を実践します。」

組合員・役職員の悲願であった福島生協病院の新築移転がいよいよ実現し、2015年9月2日に新病院オープンという運びとなりました。この間、ご協力いただきました皆様には心から感謝申し上げます。

完成した新病院は、地上8階建て、その2階南側の窓には昭和32年の「供木運動」によって、日本全国各地と世界から平和大通りに提供された樹木の緑を映し込み、平和の「森」の姿を新病院の身にまといております。そして、建物内部も「森」を通して患者様が訪れることをイ

メージした落ち着いた色調の内装となりました。都市部の限られた敷地の中で、病院の諸機能をコンパクトにまとめ、患者様が利用しやすい設計をめざしました。

地域の保健予防、健康づくりをバックアップ

新病院では一般病棟（急性期）に加え、新たに回復期リハビリテーション病棟と地域包括ケア病棟の「新機能」を持ち、地域の医療によりいっそう貢献していきます。また、初再診の一般外来とともに慢性疾患医療を充実させます。そして、地域の保健予防、健康づくりをバックアップするとともに、在宅医療を支援する機能を強化します。私たちの病院は、地域住民・生協組合員と医療者の協同の心と力を集めてつくった病院です。「地域包括ケア時代」を迎え、地域で最期まで安心してくらしたいという願いに応え、創立以来貫いてきた無差別平等の医療を引き続き進めてまいります。

みんなでつくった新病院

この間、利用者にもやさしい病院づくりをめざして、新病院の建設運動には生協組合員も主体的に参画してまいりました。2012年9月に200名を集めた「新病院建設スタート集会」を皮切りに、「もしも組合員38,000人の英知を新病院に活かしたら：プロジェクト」（通称「もしプロ」）という組合員と職員との意見交換会を11回行い、医療構想や設計検討などを進めてまいりました。また、2014年3月に旧市民球場跡地で行った「新病院建設着工記念けんこうまつり」を7,000人の参加者で成功させるなど、役員員および組合員一同、「私たちみんなでつくった新病院」として、誇らしい気持ちで開院の時を迎えているところです。

福島生協病院の出発となった福島診療所の開設から60年を迎える年に新たな出発をします。引き続き皆様のご協力をお願いいたします。

広島県消費者団体連絡協議会「通常総会」・マイナンバー法に関する学習会・特定商取引法を知ろう



消費者のつどい 2014 の一場面 (寸劇)

2015年度 通常総会開催

広島県消費者団体連絡協議会 新会長に澤井氏

広島県生協連が事務局を務め、広島県内の8つの消費者団体で組織する広島県消費者団体連絡協議会の2015年度通常総会が7月13日(月)、広島県消費生活課研修室にて開催されました。以下の3議案が提案され、審議の結果、3議案とも満場一致で承認されました。

(第1号議案) 2014年度活動報告並びに決算報告の件
(第2号議案) 2015年度活動方針ならびに収支予算案の件
(第3号議案) 役員改選の件

役員改選では、新しく会長に澤井清子さん(広島県地域女性団体連絡協議会会長)、副会長に徳田洋子さん(広島消費者協会会長)、監事に松本治美さん(JA広島県女性組織協議会会長)が選任されました。

続いて第1回幹事会を開催し、以下の議題を協議し承認されました。

1. 消費者のつどい2015の開催(2015年11月12日開催予定)
2. 食品の安全に関する推進プラン「食品の安全ウォッチング活動」の実施(12月)

広島県消費者団体連絡協議会 構成団体

所属団体	役職	名前
(公社)広島消費者協会	会長	徳田 洋子
JA広島県女性組織協議会	会長	松本 治美
呉市消費者協議会	会長	清田 清美
広島県地域女性団体連絡協議会	会長	澤井 清子
廿日市市消費者協会	会長	前田 幸子
因島消費者協会	会長	吉本 田鶴子
NPO 法人消費者ネット広島	理事長	吉富 啓一郎
広島県生活協同組合連合会	会長理事	岡村 信秀

3. 2015年度意識調査活動の実施
4. 消費者団体活動交流会の開催(2016年2月3日開催予定)
これからも、消費者のくらしと健康、権利を守るため、加盟する消費者団体が相互に連絡を保ち、情報交流、学習、研修等に連携して取り組み、連帯を強めて広島県の消費者運動を発展させていきます。

マイナンバー法に関する学習会を開催!

広島県生協連理事会は、7月10日、第2回理事会終了後に、広島県生協連役員が参加して、2015年度10月に導入が予定されている「マイナンバー法」の学習会を、後藤紀一弁護士を講師にお招きし、開催した。

マイナンバー法の立件趣旨、経緯から、マイナンバー法の問題点、マイナンバーの利用にお

「特定商取引法」を知ろう①

消費者ネット広島

特定商取引法は、消費者トラブルを生じやすい特定の取引形態ごとに、書面交付の義務付け、不適切な勧誘行為の禁止等、事業者が守るべきルールと、クーリング・オフ制度等、消費者を守るルールを定めています。これにより、事業者による違法・悪質な勧誘行為を防止する、消費者の利益を守るための法律です。

特定商取引法の対象となる取引類型は、「訪問販売」「通信販売」「電話勧誘販売」「連鎖販売取引」「特定継続的役務提供」「業務提供誘引販売取引」「訪問購入」の7つです。次回からは、この7つの取引についての説明



(文責・事務局長 宗山隆幸)

理事会報告 福祉・介護委員会報告 新加入スタッフ紹介

第2回理事会報告

第2回理事会議事録

■日時

2015年7月10日(金)

■場所

広島県生協連3階会議室

■出席

理事17名中14名出席、監事2名中1名出席

(出席理事) 岡村、高田、盛谷、岡野、横山、吉山、武田、近江、斉藤、乃美、金築、長谷川、戸田、門田、(出席監事) 塩道

■議決事項

以下の項目について資料に基づき提案説明を行い、全員異議なく承認決定した。

(第1号議案) 他団体の公職承認及びコープ・アドバイザーの

選任の件

1. 広島県農業関係施策検討会議への派遣

2. 広島県環境県民局補助金等審査会への派遣

(第2号議案) 第44回生協大会実施要項について

(第3号議案) 安保法制関連法案に関する意見書について

(第4号議案) 2015年広島県への要請について

(第5号議案) 2015年度主な役職員向け教育研修実施について

■報告事項

各事項について資料に基づき説明を行い、全事項について確

認した。

(第6号議案) 一般活動報告

1. 2015年度広島県生協連業務執行体制について

2. ピースアクションヒロシマについて

3. 県内連帯の推進について

4. 広島県協同組合連絡協議会協同組合学校の開催について

5. 2015市民平和行進実施案内

6. 平和の折り鶴昇華再生事業支援協議会報告

7. 第31回中四国生協・行政合同会議について

8. 広島県生協連賛助会員規則について

福祉・介護委員会報告

第2回福祉・介護委員会議事録

■日時

2015年7月27日(月)

■場所

広島県生協連3階会議室

■出席

盛谷、飯星、志々目、(広島中央保健)、斉藤、本浦、山本(広島医療)、乃美(福山医療)、横山、西谷(ひろしま)、高田、岡崎(広島県生協連)

【主な内容】

1. 経営情報集約表に基づく4生協介護事業の事業・経営状況について

(1) 4生協介護事業・経営状況報告

(2) 報告に基づく交流

2. 2015年度課題の具体化について

(1) 人材育成の研修会の取組みについて

(2) ボランティア・生活支援サポート・養成研修の開催について

(3) 日常生活圏域別の3生協の資源情報集約の取組みについて

3. 2015年広島県への要請内容(地域福祉・介護・医療の分野)について

4. 2015年度のトップ視察研修について

5. 広島市の地域密着サービス事業者募集への対応について

住み良い地域づくりを…



岡崎 晃

今年の4月より、県生協連に新設された医療・購買生協の事業連帯担当として勤務を始めた岡崎晃と申します。3月末までは生協ひろしまで福祉事業部門の責任者をしていましたが、元々は16年前に生協内の人事異動で福祉部門の仕事に就きました。

ここでは、医療・購買生協の事業連帯促進の仕事について、私の思いをお伝えします。

広島市内には2つの医療生協があり、医療・介護事業を

行っています。生協ひろしまも1998年より福祉事業を実施しており、3生協を合わせると57の介護関係の事業所を運営しています。更に2つの地域包括支援センターと1つの障害者相談支援センターも広島市の委託を受けています。これらの事業所の人材や地域でのネットワーク、情報、ノウハウを総合化していく事で、事業効果を更に深める事が出来ます。

またこれからの地域社会では、日常的な生活エリア毎に医

療、介護・予防、生活支援、住まいのサービスを充実させ、住民自身が住み良い地域づくりに参画していくこと(地域包括ケア)が重要になります。こうした時に、同じエリアで活動する医療生協と購買生協が持っている事業や組合員活動の資源を持ち寄り総合力を発揮して行く事が地域への貢献に繋がります。地域や組合員のニーズに基づいた新たな事業も興していきたいと考えています。



何のために私たちは働くのか 自分達が運営するCO-OPで、夢を叶え、世界に発信

Jon Ander Musatadi (ジョン・アンダー・ムサタディ)

●プロフィール

1993年8月21日、スペインバスク自治州ゲルニカ・ルモ市に生まれる。2015年同州ギブスコア県・アラサーテのモンドラゴン協同組合企業体設立のモンドラゴン私立大学経済学部を卒業。在学中から、労働者協同組合に興味を持ち、モンドラゴン大学の学生14人で立ち上げた協同組合TZBZに所属し、現在TZBZの執行役員の席にある。

日々のことから

ジョンさんは弱冠21歳、日本でいえば、大学を卒業し就職活動で苦労して職に就いたばかりの年齢だ。つまり、日本ではまだ何も手につかない新人社員ということになる。ところがジョンさんは、大学時代にモンドラゴン協同組合企業体を背景に、自分達だけで立ち上げた労働者協同組合TZBZ(※3、4P参照)に所属し、現在では選ばれて組織のプレジデントの席に

いる。また、彼は、世界を巡って、コンサルティング業務を中心に、教育支援等の社会的なプロジェクト等で、数々の実績を挙げてきている。立派なプロの事業家でもある。

事業の過程のなかでジョンさんは、今年3月に日本を訪れ、広島の実態や、佐々木禎子さんの折鶴にまつわる悲しい出来事を知り、バスクに帰るや否や、「折り鶴プロジェクト」を企画し、ゲルニカ・ルモ市と広島市とを結ぶ平和の架け橋になることを決意し行動に移した。

「なぜ日本に来たのか？」という問いに、「16歳の頃日本語を習うほど日本に憧れ日本が好きだった」とジョンさんは言う。しかし、日本文化、歴史、人、どれをとっても大好きだというが、特定のものを挙げることを彼はしない。今度の日本訪問は、

もっと深い意味があるように思える。彼は会話中、「日本の若い人は何のために働くのか」という問いをこちらに発した。

この言葉には、経済至上主義の今日の日本社会と、現在の経済優先の社会状況が当たり前だと考えている私達に、一石を投じたように思えたのである。

少し、ジョンさん個人について紹介する。彼のお父さんは、ゲルニカの労働者協同組合の普通の職員だったが、祖父は、地元で水産会社を経営し、アフリカモロッコの西方に浮かぶスペイン領カナリヤ諸島でホテルも経営している。いわゆる実業一家である。しかし、ジョンさんは、成年に達するまで祖父がそのような事業家であることを一切知らなかったという。なぜなら、おじいさんは、商売のことを、特にお金のことを孫に聞かせることをあえてしなかったのである。バスクの民は、誇り高い民族だといわれているが、自分の孫に自分が携わっている仕事を一度も話題にしないということは普通はあり得ない。何

だか、日本のサムライにまつわる話のようだ。バスクの人の本質が伺えるエピソードである。彼が所属するTZBZは、モンドラゴン協同組合企業体をバックに大学生が自分達で出資し、しかもそこで働く人は生協

の原則である一人一票の投票権を持つ自由平等の組織である。企業紹介には、事業内容として、新しいビジネスイニシアチブ、人間中心のサービスの設計、教育イノベーション、ビジネス戦略、国際化、チームのコーチング、サービスの設計、エクスペリエンスデザイン、チームリダーシップ等が列記されている。要はすべてのコンサルティング事業が主な仕事だと言っている。大学時代からジョンさんはこの組織で、一つの責任を持たされ、3年間に約200万円の利益を上げるというノルマを課せられ、協同組合とビジネスのノウハウを学んだという。

「折り紙プロジェクト」とともにジョンさんが日本の広島に来たのは、事業の一環だと考えられる。そして「これから私は、日本を始めとして、一人一人の夢を形にするための『ジュニア・コーポレイト』(学生だけで運営するCOOP)を作りたい(既に日本で明治大学と東洋大学にワークショップを設立)」ということを言葉に力を入れて話したのである。そして、若い人達が一緒になって創成する「ジュニア・コーポレイト」の力によって「ジャイアント・インパクト」を世界中に発信する」ことが彼のいちばんにめざすところだと眼を輝かす。

【編集室から】

ここ何年か続けて8月5日のピースアクションinヒロシマの虹のひろば会場を訪れている。そこで、今年は何かが違った印象を受けた。オーブニングは、被爆、ヴァイオリン・ピアノ演奏によるスタート。例年は、インパクトのあるパフォーマンス等でスタートだったが、ヴァイオリンとピアノの優しく哀しい調べが、聞く者の心を和ませ、原爆でなくなつた人達の鎮魂となつたように思えた。▼「被爆」○○○という言い方は、安易な言葉の使い方に思えて好きではないが、虹のひろばが、今年のように派手なパフォーマンスのない静かな会場だったのは、好感が持てた。次年度の良き手本になるのではないかと。今年の標語は「継承と創造」だったが、被爆の証言をする人達の高齢化が取りざたされ、多くの処で、証言の継承が急がれている。虹のひろばでは、平和の担い手を継承する「子ども平和会議」の皆さんがステージに上がった。が、少ししか言葉聞くことが出来なかった。将来を担う子ども達が、父兄だけでなく一般の人達にも目見え、できれば大人と考

平和とよりよき生活をめざして

広島県生活協同組合連合会

〒730-0802 広島市中区本川町2-6-11
第7ウエノヤビル 5F
TEL 082-532-1300 FAX 082-232-8100
E-mail : kenren.h@proof.ocn.ne.jp
URL : http://hiroshima.kenren-coop.jp